

# 熱中症防ごう 各区が対策

## パトロールで呼びかけ、介護業者が室温指導



熱中症対策を呼びかけるチラシを手渡す井川さん(右) (世田谷区で)

連日の猛暑で熱中症患者が続出しているのを受け、各区では高齢者を中心に、水分補給などの対策を取るよう呼びかけている。都監察医務院によると、梅雨明け(7月17日)から4日までに熱中症が原因とみられる死者は23区内で高齢者を中心に95人に上り、特に一人暮らしのお年寄りが目立っている。5日も練馬で最高気温36・0度、大手町で同33・4度を記録。気象庁によると、今後とも気温の高い日が続き、注意が必要だ。(小泉朋子)

「暑いですから、こまめに水分を取って下さいね。少しクーラーもつけましょうね」。3日午後、世田谷区内で訪問介護サービスを提供している世田谷ホームヘルプサービス職員の井川眞美さん(51)は、一人暮らしの女性(90)宅を訪れ、区が製作したチラシを手渡した。チラシには、のどが渇い

ていなくてもこまめに水分補給をすることや室温が28度を超えないようにすることなど、熱中症予防のポイントがまとめられている。同区では、介護事業者が高齢者宅を訪問する際にチラシを渡して注意を呼びかけるよう協力を求めている。

井川さんによると、この夏は、ヘルパーが訪問するとお年寄りが脱水症状を起こし、ぐったりとしており、病院に行ったケースが数件あるという。「クーラーは冷えるから苦手」と室温が高いまままで過ごす人も多い。井川さんは、「もう少しで手遅れになる例もあった。訪問の際には、スポーツドリンクを用意したり、タイマーを設定してクーラーをつけることを勧めたりと、例年以上に注意を呼びかけています」と話す。

同区では、このほか24時間、区内を循環している安全安心パトロールで、午前と午後の2回、こまめな水分補給を呼びかけ、熱中症に注意を促している。

新宿区でも、地域包括支援センターの職員が、高齢者宅を訪問する際には、脱水症状がないか、室内の温度は適切に保たれているか

などについて注意を促している。

荒川区では、高齢者の転倒予防のために週1〜2回行っている体操教室について、冷房がない3会場で8月中の実施を中止にした。都監察医務院によると、熱中症が原因で亡くなったとみられる95人のうち、91人は室内で亡くなった。また、70歳以上が8割以上を占め、一人暮らしで、クーラーや扇風機をつけていない高齢者が多かった。同院では、「室温が高くなりやすいように注意を呼びかけるなど、一人暮らしのお年寄りへの配慮が必要」としている。

### 夜も気温下がらず

気象庁によると、梅雨明け以降の最高気温の平均は大手町で33・4度と平年を3・6度上回る暑さとなっている。練馬や八王子では、7月19〜28日と10日連続で最高気温が35度以上の「猛暑日」を記録、大手町でも7月21〜24日の4日連続で猛暑日になった。

7月の最低気温の平均も、大手町で25・0度(平年22・5度)と、夜でも気温が下がらない寝苦しい日

が多い。大手町では7月30日から今月4日まで6日連続で最低気温が25度を下回っており、熱中症になりやすい状況に同庁で注意を呼びかけている。

無断で複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案等著作権を侵害する一切の行為を禁止します